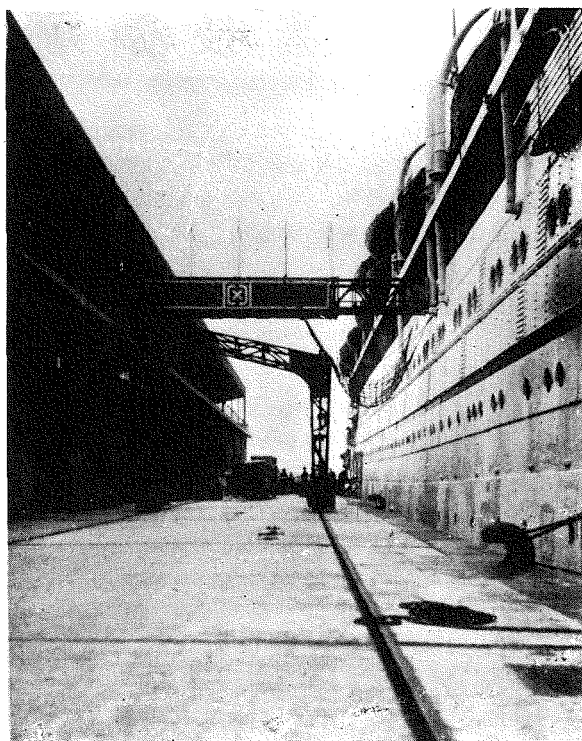


神 戸 税 關
 第 五 突 堤
 S 上 屋
 繫 船 渡 橋



上屋の送迎廊下より岸壁に繋留してある船に直接架け渡して旅客の乗降に便する設備であるが、此繫船渡橋の特長は 營繕管財局技師藤澤惟助氏の考案(特許114653號)になる伸縮自在の「テンスコーピック」二重桁であつて、舷門から送迎廊下迄一つの勾配で渡れるので、混雑の場合でも少しも危険がないばかりでなく、かなり甲板の高い船にも勾配に無理をせず架ける事が出来る。又岸壁に繋留してある船は潮の干満と、少しの風や浪にでも絶えず上下、左右、前後に動いてゐるので、此動きに対応して橋自体が架けたまゝ少しの危険も無理もない様、自由に働き得る様特別の苦心が拂はれて居る。

殊に僅の人力(5人にて足る)で而も本船の手も機械も借らずに容易に操作が出来るので、従来の繫船渡橋に比較して非常に便利で安全である、工費は事變前の鐵鋼の安い時で約五千圓位。

設計施工 營繕管財局神戸出張所